

2010年10月の水生動物委員会報告における「ラナウイルス感染症」診断方法マニュアル案に対する我が国のコメント

全体コメント

第 4.3.1.2.2 条（抗体を用いた抗原検出方法）及び第 4.3.1.2.3 条（分子技術）において、両生類のラナウイルスを検出するために、対 EHN 抗体及び EHN を元に設計されたプライマーを使用することが推奨されている。EHN ウイルスと両生類のラナウイルスは異なることから、上記の抗体及びプライマーが、現在知られている全ての両生類のラナウイルスに対して使用できることが大前提である。

上記の前提が正しいと仮定し、上記抗体及びプライマーを使用した検査において両生類のラナウイルス陽性であるというより正確な結果を得るために、もう一段階ウイルスの性質を検査する、特にサンプルが EHN ウイルス陽性ではないことを確認する工程を設けることが重要と考える。

さらに、提案されている抗体を用いた抗原検出方法の主目的が両生類に病原性のあるウイルスを検出することであることを考慮すると、将来的に、両生類のラナウイルス（例えば FV3 や BIV）に特異的な抗体を使用することを提案する。現時点ではこのような抗体の産出及び実質的な使用が難しいことは理解している。

個別コメント

注意：個別コメントについて、赤字で追加部分に下線、削除部分に取り消し線を引いてある。

(案文)

1. 適用範囲

この章の目的において、ラナウイルス症とは、流行性造血器壊死症ウイルス及びヨーロッパナマズウイルスを除くラナウイルス属のウイルスによって引き起こされる全身に臨床症状を呈すあるいは潜在性の感染症である。

(理由)

水生動物コード第 8.2.1 条と整合性をとるため。

(案文)

表 5.1 (続き) サーベイランス及び診断の方法

方法	サーベイランス				仮診断	確定診断
	卵子／精子	オタマジャクシ	変態期 (metamorph)	成体		
細胞培養	na	a	a	a	a	a
抗原検出 ELISA	na	a	a	a	b	b
抗体 ELISA	na	d	d	c	c	d
PCR 制限酵素による分析	na	d	a	d	c	<u>ac</u>
PCR 遺伝子配列分析	na	d	d	d	c	<u>ac</u>

(理由)

第 4.3.1.2.3 条では、PCR 法においてプライマーとして MCP-1 あるいは MCP-2 を使用することが推奨されている。しかし、MCP-1 及び MCP-2 は元々 EHNV を元に設計されたプライマーである。提案された方法では、両生類のラナウイルス感染症が見逃される恐れがあることを懸念する。このため、MCP-1 及び MCP-2 を両生類のラナウイルスに特有のプライマーに置き換えることを要望する。それができない場合は、表 5.1 の PCR の確定診断の指標を「a」から「c」に変更することを提案する。